

平成25年度
第10回阿波市教育委員会定例会会議録

阿波市教育委員会

平成25年度第10回阿波市教育委員会定例会会議録

1 日 時 平成26年2月28日(金)

開会 午後1時00分

閉会 午後2時40分

2 場 所 吉野支所 2階会議室

3 出席委員

委 員 長	安 田 佳 子
委員長職務代理者	重 清 由 充
委 員	大 村 勝 子
委 員	大 塚 清
委員(教育長)	坂 東 英 司

4 会議出席者

教 育 次 長	新 居 正 和
教 育 次 長	藤 本 功 男
教 育 総 務 課 長	三 浦 康 雄
学 校 教 育 課 長	大 倉 敏 美
(書記) 教 育 総 務 課 課 長 補 佐	上 田 美 智 代

5 付議事項

- (1) 前回会議録の承認について
- (2) 教育長の報告について
- (3) 平成25年度教育委員会一般会計予算補正第5号及び第6号について
- (4) 阿波市学校教育賞について
- (5) 準要保護の認定について
- (6) その他について

会議の大要は、次のとおり。

【安田委員長】 定例会を開会する旨を告げる。

(1) 前回会議録の承認について

【安田委員長】 事務局に説明を求める。

【新居教育次長】 第9回定例会及び第1回臨時会の会議録について説明する。

〈質 疑〉

なし

【安田委員長】 「前回会議録の承認について」を承認する旨を告げる。

(2) 教育長の報告について

【安田委員長】 教育長に報告を求める。

【坂東教育長】 2月3日から2月28日までの、主だった教育委員会行事等について報告。

〈質 疑〉

なし

【安田委員長】 「教育長の報告について」を了承する旨を告げる。

(3) 平成25年度教育委員会一般会計予算補正第5号及び第6号について

【安田委員長】 事務局に説明を求める。

【新居教育次長】 平成25年度教育委員会一般会計予算補正第5号及び第6号の歳入・歳出について説明。

〈質 疑〉

【大村委員】 学校施設環境改善交付金で行う一条小学校、吉野・土成中学校のトイレ改修その他工事だが、これは、耐震・大規模改修工事をしていない学校のトイレを工事するという事だろうか。

【新居教育次長】 工事をする一条小学校北側校舎と吉野中学校は、昭和56年以降に建築した新耐震基準適合の建物であるので、耐震工事をする必要がなく、トイレ改修もしていなかった。土成中学校は、平成4年・5年に大規模改修工事をしているが、トイレは古いタイプの湿式のままで残っていた。

【大村委員】 八幡・大俣・林の各小学校の外部トイレは、どうなっているのだろうか。

【三浦教育総務課長】 今回の補正は緊急経済対策ということで、急ぐものを最優先した。合併特例債も使うことができ、1億9千万円の事業費であるが、一般財源は2

千数百万だけで済む非常に有利なものになっている。

【大村委員】古い造りの男女兼用個室が一つあるだけのトイレなど、災害時のことを考えると心配になる。今後、教育施設の改修・修繕もたくさんあると予想されるが、外部トイレのことも、考えておいてほしいと思う。

【安田委員長】「平成25年度教育委員会一般会計予算補正第5号及び第6号について」を了承する旨を告げる。

(4) 阿波市学校教育賞について

【安田委員長】事務局に説明を求める。

【三浦教育総務課長】阿波市教育委員会表彰規程に基づく「阿波市学校教育賞」の被表彰者の説明、来年度の表彰方法等について提案する。

〈質 疑〉

【安田委員長】こんなにたくさん子どもたちが優秀な成績を収め表彰されるのは、素晴らしいことだと思う。

【坂東教育長】来年度以降の表彰方法については、校長会等で協議したい。

【安田委員長】「阿波市学校教育賞について」を承認する旨を告げる。

(5) 準要保護の認定について

【安田委員長】事務局に説明を求める。

【大倉学校教育課長】準要保護の認定について、学校別準・要保護児童生徒数を基に説明。

〈質 疑〉

なし

【安田委員長】「準要保護の認定について」を了承する旨を告げる。

(6) その他について

【安田委員長】委員と事務局に何かあるか尋ねる。

【坂東教育長】文部科学省の英語教育強化拠点事業の概要について説明する。

〈質 疑〉

【大塚委員】教員の加配は、準備期間である平成26年度からあるのか。

【坂東教育長】事業が決定すれば、26年度から1名加配される。

【安田委員長】教員の人件費とは別に、事業予算が配分されるのだろうか。また、市全体に、1名が加配されるということだろうか。

【坂東教育長】そうである。

【藤本教育次長】基本的には教育委員会の事務局で、英語推進リーダーとして、国で研修を受けたり、そこで学んだことを広めたりする役割を担うことになる。

【安田委員長】正規の教員が配置されるのだろうか。

【藤本教育次長】そうである。

【大塚委員】予算は国から出るのだろうか。

【藤本教育次長】文部科学省から県へ、そして市へという流れになる。4年間、この事業のために別枠で、教員が1名加配されることになる。

【大塚委員】教員の選任はどうするのか。

【藤本教育次長】県と市で話し合い、決めることになる。

【坂東教育長】この事業の話が出る前から、阿波市では、26年度を準備期間として、平成27年度から担任が英語の授業を行う計画を進めている。

【大村委員】国は、いつから英語を教科化する方針なのか。

【坂東教育長】文部科学省は、2020年度からの実施を目指している。

【大村委員】週に何時間の授業をするのか。

【藤本教育次長】2020年度の予定は、週3時間である。総合学習や土曜授業などで授業時間を確保することも視野に入れて、計画を進めているようだ。

【安田委員長】石井町も土曜日を活用していくことが、新聞に掲載されていた。

【大村委員】道徳の教科化という話も出ているようだが、小学校1年生の子どもが夕方遅くに帰っているのを普通に見かけるぐらい、授業時間にゆとりがないのが現状だ。

【安田委員長】現場の先生方は、たいへんだと思う。

【大村委員】英語の授業時間確保のためには、どこかの時間を削って、英語に充てなければならない。これまでも、図画工作や音楽の授業が減らさせてきた。現場が、一番たいへんだ。

【藤本教育次長】現在行われている英語活動も、英語の教科化を視野に入れて、スタートしている。

【大村委員】予算を有効活用して、研修の機会などを増やし、まわりの先生方に広めてほしい。

【大塚委員】スポーツ界などでも、世界で活躍する人が増えてきているが、実際に英語をしゃべることができる人間がもっと増えてほしいと思う。

【藤本教育次長】今回の大きな改革のねらいも、「英語が使える日本人の育成」である。今までの文法中心の英語教育ではなく、外国人と英語でコミュニケーションがとれ、しっかりと自分の考えをやり取りの中で出すことができる能力を高めていくことが、基本にあるようだ。

【安田委員長】退職した教員をボランティアティーチャーとして学校ごとに登録するシステムを、阿波市でつくってほしいと依頼。

【坂東教育長】教育委員会としても、考えている。

【藤本教育次長】地域とともにある学校、という学校の在り方は現在の大きな流れである。これまでもそういう働きかけはしてきたが、なかなか学校単位としては動きにくい部分がある。現在、教育委員会が窓口になる学校支援ボランティアの仕組みをつくっている。希望する方に登録をしてもらい、学校の希望に合うよう、事務局が調整をしていく。教育支援、登下校安全、学校の環境整備など多岐にわたるが、分野を広げると事務局が忙殺されるので、学習支援的なボランティアに絞り込んで、計画していきたいと考えている。何か事が起こったときに、人を雇う雇用ということになれば、すぐに対応できない。地域にはたくさんの人材がいるので、システムをうまく運用すれば、学校支援ボランティアの方に、自然に学校に入ってもらえるような状態ができると思う。

【安田委員長】放課後の特別支援対応等のために、一つの学校に子どもたちが集まる通級学級設立の提案を受けたことを報告。

【藤本教育次長】阿波市も、県に申請をした経緯がある。予算を組んで人を配置する必要があるので、一定の人数の見通しがいるなど、いくつかの条件があり、とん挫したことがある。しかし、今後も、検討の必要性はあると思う。

【安田委員長】特別支援教育の専門的な知識をもった人の配置が必要だと感じたことがあったので、近くにそういう教室があれば、保護者も便利だし助かると思う。

【坂東教育長】教員も、特別支援の担当になれば研修を受け、経験を積み重ねていく。

【藤本教育次長】法改正により、特別支援教育の研修体制も整ってきた。コーディネーターとして、しっかりと特別支援教育を推進できる力量のある教員が増えてきた。

【大村委員】特別支援を要する子どもも増えている。

【藤本教育次長】幼稚園や保育所でも、特別支援教育への対応に苦慮している部分がある。専門の先生が来てくれることは、教職員の力量を高めるために当然必要なことだが、現場の教職員の中から、実際にコーディネートができる人を増やしていかなければならない。

【大村委員】研修の場はあるが、行くと担当のクラスが留守になる、長期の休みにも適当な研修がない、というようなこともある。人員に余裕があれば、まかせて研修に行くことができる。特別支援を受ける子どもたちは増えているのだから、力を入れていくのは大事なことだと思う。

【藤本教育次長】今年から実施する、修了式後と入園式前の預かり保育について説明。

【安田委員長】要望がすごくあった。この春休みの預かり保育がないので、保育所に通わず保護者も多かった。これが始まると、4歳児の入園希望者も、今後増えていくと思う。

【坂東教育長】元々、来年からは実施することになっているので、前倒しのかたちで今年の春休みから開始した。

【安田委員長】この春休みの預かりがないので、幼稚園に行かせたいが、行かせることができないという保護者も多かった。

【大村委員】それだけ、母親などの勤めが増えているということである。

【藤本教育次長】少子化だが、女性の社会進出を応援するためには、受け皿が必要となる。

【重清職務代理者】中学生の自転車通行について、交通安全指導を依頼する。

【安田委員長】本日の議事がすべて終了したので、閉会する旨を告げる。

閉 会

上記のとおり相違ないことを証明します。

平成26年2月28日

委 員 長

委員長職務代理者

委 員

委 員

教 育 長

教育総務課課長補佐